

### ◆◆◆大城 保 議員◆◆◆



#### 農業振興

##### ①アボカド・アテモヤ

**質** 新たな品目の産地化に向けた取り組み。

収穫まで5、6年かかると言われている「アボカド」を選定した経緯、理由があれば伺いたい。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

全国的にも、生産量が少なく99%が輸入です。人気があることから、需要が増え続けている状況にある。

農家の選択肢も増え、恩納村の農業振興にも繋がる。

**質** 農家に苗の供給は、どれぐらいを目途に計画しているか。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

現在14種類、16本を苗畑に植えております。優良品を選抜し、農家の苗の普及までには、概ね5年以上10年以内と考えています。

**質** アテモヤについて、村長による市場や量販店でのトップセールスを行って、市場での反応、評価今後の需要の伸び、どう感触を得たか。

**答** 恩納村長 長浜善巳

試食会やピール活動を行って「他都道府県においても有望である」と認識している。全体的に量が少ない。今後は安定供給、安定生産が求められている。

**質** 生産量の増大に向けて、取り組んで参りたい。

**質** トップセールスやテレビ放映で、アテモヤの認知度が上がり、消費も伸びています。顧客は増えていますが、品薄状態。アテモヤの増産に取り組むべきと思いますが、新規にハウス導

入計画等はあるか。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

平成30年度、JAから数棟の導入の要望がございます。

#### 農業振興

##### ②拠点産地のメリット

**質** 県の果樹農業振興方針として、新しい産地の参入もあり得る。産地間競争も出てくると思っている。

今後消費の伸びが見込まれるアテモヤ、農家の意向も伺いながら、拠点産地のメリットを有効的に活用すべきと思いますが。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

農家が規模拡大、また、新規参入者がいらつしゃれば、積極的に進めて参ります。

**質** 高品質な果実を安定的に生産するには、やはり優良品種の苗の確保が課題です。

苗の供給も、村で責任をもって供給すべきと思いますが。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

現在、苗畑で種苗はつくっています。これからは、生産者の方にも苗づくり等の指導、技術も習得し

て頂ければと思っている。

**質** 沖縄で農業をするからには避けて通れない自然災害「台風」。アテモヤについても影響はかなりのあると思つ。

定時、定量、安定した生産を図るには、台風対策の「風の軽減策」として、内側からの防風ネット、二重ネットの検討ができないか。

**答** 農林水産課長 佐渡山安正

県の補助事業等があるか、検討して参りたい。防風林の整備も積極的に活用して頂きたいと思つている。



防風ネットの『二重被服』テスト状況

### ◆◆◆當山 達彦 議員◆◆◆



#### 沖縄科学技術大学院大学

**質** 門前町構想計画の現状はどうなっているか。

**答** 企画課長 山城雅人

関係機関により計画の推進を図っており、昨年度は谷茶前の浜碑を整備し、生活支援基盤整備の中で、住宅エリアとして位置付けられている場所に、国道バイパス工事に伴う残土搬入を計画しています。

**質** 住宅地域ゾーンは、国道事務所と残土搬入の調整中ということ

とありますが、いつ頃から動き出すのか。

**答** 企画課長 山城雅人

森林法、他法令関係の様々な課題があり、文化的価値のあるものの調査後に、国道事務所と進めていければと考えている。

**質** 門前町構想は、何を想定しているか。

また、筑波大学視察訪問から、門前町構想において参考になった点を伺います。

**答** 企画課長 山城雅人

門前町構想は、大学院大学ゲート空間としての村道大袋原線沿線、谷茶区集落及び谷茶前の浜碑の周辺を「門前町地区」と位置付けております。

また、視察調査結果は、国や県が企業等の誘致も主導しており、直接の係りはなかったと報告があります。

**質** 大学院大学門前町地区整備、村独自の基本構想は作成されているか。

**答** 企画課長 山城雅人

平成17年3月の沖縄科学技術大学院大学周辺整備計画(仮称)のみです。

**質** 現在、村と沖縄科学技術大学院大学との間で、意見や情報の交換及び共有は行っているか。

**答** 企画課長 山城雅人

企画課の大学院大学推進係を中心に、連携及び情報共有を図っています。

**質** 大学院大学側が村に対して、どのような要望をしているか。

**答** 企画課長 山城雅人

大学院大学の職員、学生の増が予想され、周辺整備の中で「宿舎」を急いでおり、住宅エリアについて、OISTと情報を共有しながら、整備していければと考えている。

**質** 今後、門前町構想は将来的な計画の中で、当局は、どのように実施していくのか。

**答** 企画課長 山城雅人

県、本村、地元谷茶区など、関係機関と連携し、地権者等の合意形成が必要と考えている。

**質** 沖縄科学技術大学院大学からの、税収の詳細を具体的に聴きます。

**答** 税務課長 長浜健一

固定資産税は、平成21年度より平成29年度までの累計で8千20万円。



現在も整備が続く「沖縄科学技術大学院大学(OIST)」

村民税は、約4億4千616万4千円を課税しております。

**質** 入会権の観点から、一部を事業所分収金として、谷茶区へ還元することができるか。

**答** 総務課長 新里勝弘

別の観点で、谷茶区に還元できるものを各課で検討していきたい。これに関して、村長の答弁をお伺いしたい。

**答** 村長 長浜善巳

課長からありましたとおり、今後、議論しないといけないと感じています。できるところから二つ門前町構想ができるようになって参りたい。